

第 7 回図書館本館再整備基本計画検討委員会の事前公開資料に対する市民意見**意見 4**

1. 3-23の次頁〔規模比較資料〕 室内の建築床面積（6/9案）
学習室を増やして500席以上確保は賛成。他自治体の中央図書館を見学しても、最近はもっと多くの席を確保しているところが多いし、実際に利用されている。今後ますます滞在型利用が見込まれるので、最低でも500～600席は欲しい。

2. 3-23の次頁〔規模比較資料〕 資料保存部門（6/9案）
閉架書庫30万冊 将来増築増設で50万冊としているが、今回積層書庫上層床を造っておくことは無理なのか？ 3-14の欄外説明にあるように、後日造る場合は、かなり余分な経費と工事期間が必要になる。また、3-21の参考例示1で、「開館時に30万冊書庫の余裕冊数は10.5万冊で、年間購入冊数の4年分」となっている。せっかく造ってもじきに満杯になることが予想されるのに、今回積層書庫を見送ろうとしている理由は何か。きちんと将来を見越して長く使えるものを作るべきだ。中途半端なものは、逆に税金の無駄遣いになる。

3. 3-25, 3-5 運営と管理計画
第6回検討委員会資料3-30, 3-5-9では、「図書館運営の形態は、多摩市の政策に基づいた直営を考える。」となっている。また検討委員会での確認として、業務委託の問題点が指摘されている。第7回3-26, 3-5-4にも、「昨年度に行政と議会に認知され、市民に情報開示された「図書館本館再構築基本構想」でも、図書館の運営方針について、直営が相応しいと確認されている。」と書かれている。
ところが、同じ第7回の3-5-4では、「図書館運営の根幹部分は、多摩市の政策に基づいた直営を考える。」と変わった。また3-5-5では、「図書館運営の内部体制の基本について、改めて以下のように確認した。」として、外部委託の可能性を示唆するような表現になっている。この「改めて…確認した」のは、いつ、どこでか？
3-27の上図（図書館業務の分担）の委託・外部調達の業務については理解できるが、「根幹部分」という語は極めて曖昧で、どのようにも解釈できる。新しい中央図書館による全体の機能刷新をはかる基本計画に、なぜ外部委託や唐木田図書館の業務委託を思わせるような文言を記載するのか。ようやく中央図書館をつくって市立図書館全体の機能刷新をはかろうとしている今こそ、全館直営でしっかり考えるべきで、「根幹部分」は削除すべきである。

意見 5

1. 第6回検討委員会での議論を聞いていて感じたこと。
a) 本館図書館の面積について議論していた時、「図書館にとって必要な機能を洗い出し優先順序を考えることが必要では？」という趣旨の意見が出されました。その意見に対して賛同はありましたが反対の意見はなかったと思いますし、私もそのような優先リストを作成することは大切と思いました。

b) 上にあげた「優先順序」を考えたり、作成するときは与えられた制限の中でやるのが大切だと思います。この場合だと制限の一つは図書館の面積の上限です。

c) 第6回の検討委員会では「機能の優先順位を議論することが大切」という意見が出ました。以前の検討会では「本館図書館と地域図書館の関係性についてしっかりと議論することが大切」という意見が出たと思います。質問です。このような議論はどこかで行われるのでしょうか？ 検討委員会は時間もないので、きちんと議論はされていないを私は思ったのですが「他の場で行われた・または今後行われるの」のでしょうか？

2. 第7回事前資料へのコメント

0) 私は地域図書館の一つを愛用しているので、その立場からのコメントです。良い本館図書館ができてもらいたいとは思いますが、自分にとってより大切なのは（多少の縮小はあるとしても）しっかりと図書館として機能する地域図書館がこれからも存続することです。

1) 7-1-1.pdf 1-03 「中央図書館を作る、なんのために、どうつくるのか」の「中央図書館による全体機能刷新」

中央図書館の大切な機能の一つに「地域図書館を支える」があると思うのですが、そのことについての記述がありません。4.に「拠点館、地域館の活性化支援」という記述がありますが、もう少し具体的に深く記述していただきたい。

2) 7-1-1.pdf 3-08 「全館資料再編のイメージ」

地域図書館に置かれる本として

*) 基本的な本

*) 新しく身近な課題解決に役立つ本

とありますが、具体的に「基本的な本」とはどのような本なのかわかりません。どこかにもっと具体的にその意味を説明していただけたらと思います。

3) 7-1-2.pdf 3-27

(2) 中央図書館と分館の役割分担、運営相違を考える。

ここでは具体的にどのような「役割分担」が行われているかは書かれていません。右側のコメント欄に「今後の検討に委ねられる」とありますが、きちんと本館図書館と地域図書館の関係性について議論していただきたい。(ref. 上のコメント 1-c.)

意見 6

1. まず、市民意見を広く求めるには、もっと早く資料を用意し、図書館内で閲覧だけでなく、配布してほしいと何度も思いました。このたびの、検討委員会では、多様な市民の意見をできるだけ多く検討委員会に反映させ市民参加形式をとる、として、次回委員会向けの資料を市内各図書館に配架し、図書館内で閲覧できるようにするとしましたが、後半には、計画された日程での資料閲覧期間は守られず、毎回 2~3 日で慌てて書かなければならず、市民参画の前提が

保障されない事態の中で検討委員会が終わろうとしています。やはり、全体の日程が短いと思います。充分市民が検討できるようにしてください。

2. 私は、豊ヶ丘図書館を利用しているものですが、この基本計画検討委員会が始まる前に、4つの地域図書館をのこしてと、願ってきた地域図書館「四団体」へのヒアリングを受けた時にも、検討委員会宛の意見書を出しました。今回出された検討委員会の素案たたき台を読み込む時間が厳しく、ぎりぎりになりましたが、改めて、その時の意見を、読み返しつつ考えましたが、5回・6回目の委員会で、出された「新しい本館と地域館の役割分担」という事では、新しい本館の役割については、主として多摩市全域の図書館サービスシステムとして、各地域館を支える役割が、求められていることではないでしょうか。今回の素案たたき台でもその事は基本的な理念上は、重要視されていますが、実際面では、矛盾を感じるどころがいくつか出てきています。

① 各館の蔵書数についても、これまでの実績を踏まえて、大幅に減らすような方向性には賛成できません。貸出し冊数では、これまで60歳代～80歳代で本館と豊ヶ丘図書館とあまり大差ありません。現在、本館は、休館日も月1回くらいしかなく、開館日が多くされています。豊ヶ丘は毎週木曜日が休館です。やはり歩いていける場所にある図書館に、小説・文学はもとより社会科学・自然科学・歴史哲学等、他分野の豊富な資料が集まっており、現在でも157,000冊の年間貸出しの実績があります。これからも豊かな資料が備えられた地域館であることを切に願っております。

② 職員の問題、開館時間の問題・全館直営での運営を崩さないこと、本館の規模を膨張させず5,000㎡以内に収めて欲しいことなど、ありますが時間切れです。(6月9日には間に合いませんが、追伸で提出します) また、別の方が提出された意見書を読ませて頂きました。その方の意見に全面的に賛成します。喫茶もあればいいでしょうが、なるべく図書館の外のラウンジ化、町田市の中央図書館のように、ちょっと一休みの、コーナー程度で良いのでは、と思います。